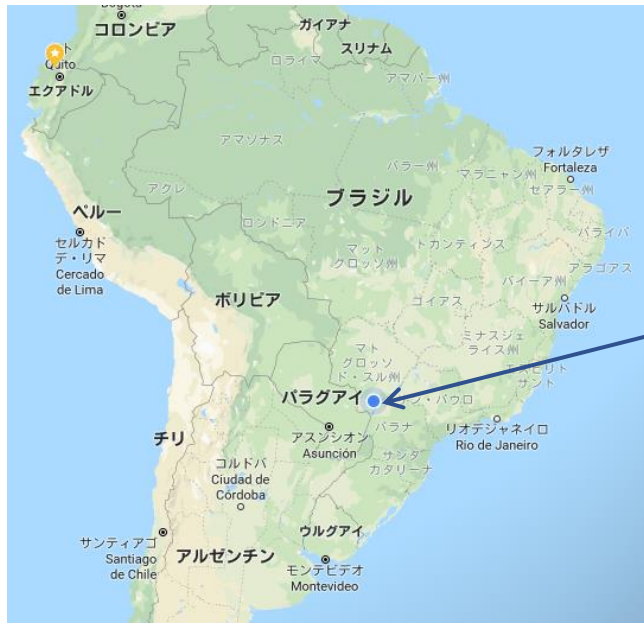


ブラジル日系社会からの通信 1 号

(広大な農園が地平線まで)



ブラジル
南マットグロッソ州 ナビライ市
(パラグアイに接している)

神奈川県のみなさん、こんにちは！

JICA の日系社会シニアボランティアとして今年 1 月から 2 年間ブラジルで活動することになりました。

この神奈川地球メッセンジャーをとおして、ここブラジルの素晴らしい日系社会の様子をみなさんへ伝えていきたいと思ひます。

簡単な事項紹介ですが、

氏名：松村繁満、派遣先：南マットグロッソ州農業協同組合 (COPASUL)、指導科目：品質管理・生産性向上、活動期間：2018 年 1 月～2021 年 1 月

1908 年笠戸丸で日本人のブラジル移民が始まって、昨年で 110 周年がたちました。移民した人々は、ブラジルのあちこちで農業を始めるべく、広大な林の土地を耕し広大な農園に変えていきました。今ではその農園が一面に広がる世界の穀倉地帯となっています。この日本の先人たちの仕事がいれほど大変だったのか、想像できないほど大変なものだったかと思ひます。

私の住む南マット・グロッソ州は日本の広さにほぼ相当します。この、ポルトガル語マット・グロッソ (Mato Grosso) は「深い森」を意味する言葉で、日本からの移民者たちがこの深い森を耕し、農園へ変えていき、今は日系 3, 4 世の人やブラジルの人たちが農園で、大豆、とうもろこし、キャッサバ、綿花、サトウキビなど栽培し、また牛の牧場がひろがっています。

写真1 空港に到着前の飛行機からの写真（地平線まで農園が広がる）

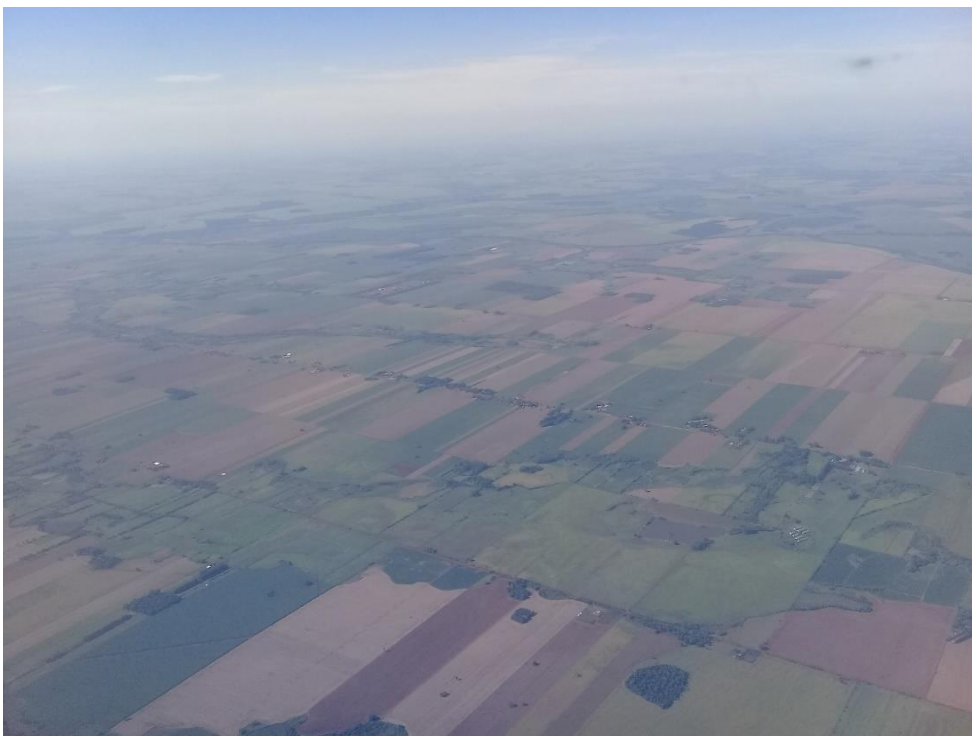


写真2 広大な農園の中にある小さな飛行場（ドラードス空港）



4月私の勤務先 COPASUL に綿花や大豆を納入している農園レカント (Recanto) を職場の人と訪問しました。

その農園の広さに感動したものです！！

写真3. 地平線まで続くとうもろこし農園



写真4 地平線まで広がる綿花農園 (未だ綿花の花になっていない)



写真5 地平線まで広がる綿花農園（収穫可能な農園）



写真6 農園主、職場の仲間たち



通信第一号では、日本人移民の先人たちに思いをはせながら、広大な農園にただただ感動した状況をお伝えしました。

次号からは日系社会の人々、勤務先の COPASUL などについてもレポートしていきます。

松村繁満 記
以上